

# 小学校英語検定教科書の語彙に関する現状と今後の課題

Words used in Japanese elementary school English textbooks:  
Current situations and issues focusing on verbs

後藤 桜, 眞野 美穂

GOTO Sakura and MANO Miho

鳴門教育大学学校教育研究紀要

第 36 号

Bulletin of Center for Collaboration in Community  
Naruto University of Education  
No.36, Feb, 2022

## 小学校英語検定教科書の語彙に関する現状と今後の課題

### Words used in Japanese elementary school English textbooks: Current situations and issues focusing on verbs

後藤 桜\*, 眞野 美穂\*\*

\*〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地 鳴門教育大学大学院

\*\*〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地 鳴門教育大学大学院 英語科教育実践分野  
GOTO Sakura\* and MANO Miho\*\*

\*Graduate student of Department of English Language Education, Naruto University of Education  
748, Nakajima, Takashima, Naruto-cho, Naruto-shi, Tokushima, 772-8502, Japan

\*\*Department of English Language Education, Naruto University of Education  
748, Nakajima, Takashima, Naruto-cho, Naruto-shi, Tokushima, 772-8502, Japan

**抄録：**本稿の目的は、新しく教科化された小学校外国語科において使用されている令和2年度版検定教科書を分析することで、その問題点とそれをどのように授業内で補うことができるかについて明らかにすることである。特に、教科書ごとに大きな差異が予見される語彙に着目する。小学校外国語科では定型文を使用することが多く、文の構成に大きな役割を担う動詞が重要な要素であるため、動詞に焦点を当て、語彙頻度調査を行った。7社の検定教科書それぞれで出現する動詞とその頻度を調査し、提示した。調査の結果、共通点もあるものの、総語数及び延べ語数ともに大きな差異があることが分かった。そこから見えた問題点を指摘すると共に、それをどのように授業で補完できるかについて、低頻度動詞の使用、be動詞の使用、中学校への接続、という3つの観点から提案を行う。

**キーワード：**英語教育、小学校英語検定教科書、語彙、動詞、頻度

**Abstract :** The purpose of this study is to critically analyze the current Japanese elementary school English textbooks and to suggest how to supplement them in classes. Since word use varies by textbook, we examine seven authorized elementary school English textbooks and show the differences in verb use and frequency. We focus on verbs, because simple and fixed verb phrases are mainly used in English education at elementary school. The results show not only common characteristics but also huge differences between textbooks regarding the choice of the verbs and their frequencies, which lead problems when teaching English using these textbooks. This study will also propose how to supplement them in class, paying attention to infrequent verbs, copular verbs, and the connection to junior high school English education.

**Keywords :** English education, elementary school English textbooks, vocabulary, verbs, frequency

#### I. はじめに

令和2年度から小学校では新学習指導要領が全面実施され、5-6年生を対象に外国語科が教科として導入されたと共に、検定教科書も使用されることになった。それ以前の移行期間では、*We can!* 1, 2が共通の教材として使用されていたが、新学習指導要領下での外国語科では、7社の検定教科書から自治体ごとに選択されるようになった。平成29年に告示された新学習指導要領での語彙の取り扱いについて、5-6年生を対象とした外国語科においては、2内容(1)英語の特徴やきまりに関する事項として、次のように示されている。

ウ 語、連語及び慣用表現

- (ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600-700語程度の語
- (イ) 連語のうち、*get up, look at*などの活用頻度の高い基本的なもの
- (ウ) 慣用表現のうち、*excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcome*などの活用頻度の高い基本的なもの

ただし、その600-700語程度の語の中で具体的にどのような語彙を取り扱うかは定められておらず、使用さ

れる語彙は教科書ごとに異なっている。そのため、指導する教員は、教科書でどのような語彙がどのような頻度で使用されているのか、取り扱われている語彙の特徴や違いを把握し、授業内で使用する語彙や提示する語彙に注意する必要があるのではないだろうか。また、同様に中学校英語教員も、小学校でのこのような現状を把握しておく必要がある。

しかし、教員は多忙のため教材研究に時間をかけることが難しく、また通常、自分の使用する教科書のみを目にするため、そこで使用されている語彙の特徴を他の教科書と比較して知る術が少ないという現状がある。また、中学校の英語検定教科書の語彙調査に関する論文はある程度見られるが(村岡, 2010; 投野, 2016; 眞野・鈴江, 2018; Morita, Uchida, & Takahashi, 2019, など), 小学校では令和2年度(2020年度)に英語が教科化され、時が浅いことから、現行の小学校英語検定教科書の語彙に関わる調査は限られている。そのため、本稿では小学校外国語科で使用される7社の教科書(2020年度版)を分析し、データを示すことで、指導する際に考慮すべき事柄を提案したい。

教科書分析を行う上で語彙に着目したのは、英語学習を行う際には語彙は必要不可欠であり、その重要性は明らかであるためである(Ⅱ. 1で後述する)。中学校外国語科の教科書では、学習するページで新しく出てくる語彙が新出単語としてまとめて記載されており(図1の四角で囲った部分)、中学生もそれを見て覚えるが、小学校外国語科の教科書では、7社全てにおいて、新出単語のような形で語彙がまとめて記載されていない(図2)。



図1. 新出語句 (New Horizon English Course 1: 32)

さらに、小学校外国語科では、定型文を使用し、その中の目的語などの名詞や形容詞を変えることで、多様な語彙や表現に触れさせている(例えば、将来の夢・職業の単元では、*I want to be a ...* という定型文を使用し、最後の名詞の部分に様々な職業名を当てはめる、など)。補語や目的語などに当てはめる名詞や形容詞などの語彙は、指導の仕方や児童の選択によって、その使用頻度は

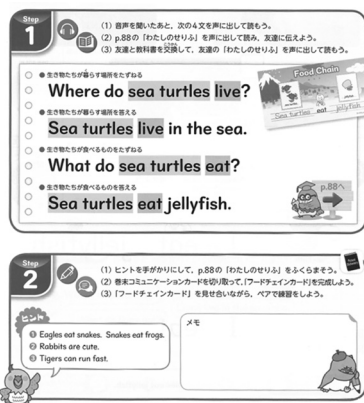


図2. 小学校英語検定教科書の一例 (New Horizon Elementary English Course 6: 46)

異なるが、定型文に使用されている文の中心的な役割を担う動詞の使用頻度は大きく異なることはなく、さらに基本的に高いことが予測される。そのため、動詞の頻度が重要となると考え、本稿の教科書分析における語彙頻度調査では、動詞に着目して行うことにした。

## Ⅱ. 先行研究の概観

### 1. 語彙に関する調査

本稿では、眞野・鈴江(2018)で中学校英語検定教科書に対して行った調査と同様に、学習者が当該語彙に出会う頻度に着目する。

第二言語習得における語彙の習得については、これまで多くの研究が行われてきた(cf. Nation, 2001; Laufer & Nation, 2012)。語彙の習得は、第二言語習得に不可欠なものであるためである。これまでの多くの研究で、2,000語レベルが1つの目安であり、2,000語の高頻度語が8割程度のカバー率を持つことが指摘されている(Nation, 2001, 他)。そのため、学習者用英英辞典も高頻度の2,000語を使って、語の解説が行われている(例: *The Longman Dictionary of Contemporary English*)。

また、語彙習得研究の中で、高い頻度で出会う語彙ほど習得が進むことが分かってきた。さらに、読むことが語彙の習得に重要な役割を果たすことはこれまでの研究で明らかにされてきているが、その中でどのくらいの回数、その語に触れることで習得が進むかについては、研究によって回数に差がみられる。Zahar, Cobb, and Spada (2001)は、学習者のレベルが低いほど、頻度と語彙の学習に強い相関が見られたことを実験的に示し、Saragi, Nation, and Meister (1978)が述べた6回以上、ある語に繰り返し出会うと学習が進むという主張を支持する結果だったことを指摘した。また、Brown, Waring, and Donkaewbua (2008)はリーディングを通して、もしくは聞きながらのリーディングの場合、7-9回程度の頻度が語彙の学習には必要であることを指摘している。し

かし、リスニングのみの場合、学習には20回以上の頻度が必要であったという点も興味深い。

本稿では、これらの研究結果を受け、目で見て読む（リーディング）ことを念頭に置き、教科書における語彙の出現頻度を調査するため、6回という頻度を1つの基準としたい。小学校の英語教育においては、学習者は音で聞く機会も多いと考えられるが、教科書で目にする語彙の頻度もその習得に大きく影響を与えることが予想できる。

## 2. 語彙に着目した教科書研究とその課題

これまで、小学校での英語教育の教材に対する調査は、いくつか行われている。佐藤・秋田谷（2018）は *Hi, Friends!* の教師用指導書を分析し、児童にとって身近な語彙が意図的に使用されていることを報告している。特に、*play, eat, swim* など、児童が日常生活で行う行動・行為を表現するための動詞、また *listen, make, look* などの、教師が授業内で教室英語として児童に指示する場合によく使用される動詞が、高頻度で出現していることを明らかにした。

さらに、渡慶次（2021）が *We Can!* 1, 2 の指導書を対象に行った文型出現頻度調査でも、児童の身近な生活や成長過程に関連性の高い文が出現していることが報告されている。動詞に関しては、不規則動詞は *went, saw, ate* が出現しているが、*enjoyed* 以外の規則動詞は出現していないことが指摘されている。しかし、これらの研究は移行期間で使用されていた教科書を分析したものであり、現行教科書を対象とした調査ではない。

現行教科書を対象とした調査はまだ非常に限られているが、そのうちの2つについて述べたい。Hoshino（2020）は、7社の現行教科書を対象に分析を行い、Type（異なり語数）やToken（延べ語数）の語数を比較している。さらに、7社の教科書で共通する語彙は12.06%であり、日常生活で使用される具体名詞、*cook, eat, jump* などの動作動詞、プラスの意味の形容詞や副詞が多くの教科書で見られることを明らかにした。ただし、語ごとの頻度は一部を除き、示されていない。

また、佐藤（2021）は、令和2年度版検定教科書および教師用指導書を対象に調査を行い、異なり語数、総語数を示し、検定教科書の高頻度・低頻度特徴語上位20語<sup>注1</sup>を明らかにすることで、授業で実施される活動に準拠する語彙を提案している。そして、代名詞、前置詞、接続詞などの機能語の頻度がオーセンティックなデータと比較して不足していることを報告している。

しかし、現行教科書において、使用されている動詞とその頻度を教科書別に示した研究は見られない。そのため、本稿では、文の構成に大きな役割を持つ動詞に着目し、どのような動詞の頻度が高いのか、またはその頻度

が低いのかを教科書別に調査すると共に、その問題点について論じる。そして、その問題が見られる動詞について、どのように授業の中で補うことができるかについて提案したい。

## Ⅲ. 小学校英語検定教科書調査

### 1. 調査対象教科書

本稿では、令和2年度より小学校5-6年生で使用されている、小学校英語検定教科書の7社分の合計14冊を対象に教科書調査を行った。以下、教科書名は括弧内の略称を使用する。

<i>Blue Sky elementary</i> 5, 6 (BSE)	(啓林館, 2020)
<i>CROWN Jr.</i> 5, 6 (CJ)	(三省堂, 2020)
<i>Here We Go!</i> 5, 6 (HWG)	(光村図書, 2020)
<i>Junior Sunshine</i> 5, 6 (JS)	(開隆堂, 2020)
<i>JUNIOR TOTAL ENGLISH</i> 5, 6 (JTE)	(学校図書, 2020)
<i>New Horizon Elementary English Course</i> 5, 6 (NHE)	(東京書籍, 2020)
<i>ONE WORLD Smiles</i> 5, 6 (OWS)	(教育出版, 2020)

### 2. 調査方法

本研究では、児童が教科書内で目にする動詞の語数を調査するため、検索プログラムを使用するのではなく、著者が教科書を読み、以下に示す調査範囲で、動詞の語数を数えるという調査を行った。機械的に行わなかったのは、複数の品詞として生じうる語の区別や、絵の中で提示されるものも含め、実際に動詞として児童が目にする頻度を明らかにするためである。

調査範囲は、全教科書において、Unit や Lesson の開始ページから Word list の前までの部分とした。Word list や絵カードは、調査範囲には含まれていない。各教科書における調査範囲は、表1の通りである。

表1. 各教科書の調査範囲

教科書 \ 学年	5	6
BSE	pp. 6-99	pp. 6-99
CJ	pp. 15-102	pp. 15-100
HWG	pp. 20-117	pp. 18-117
JS	pp. 6-105	pp. 4-101
JTE	pp. 22-138	pp. 17-134
NHE	pp. 9-84	pp. 5-83
OWS	pp. 14-111	pp. 12-105

教科書内にある Story（例：JTE-5, p.31）や、教科書下部にある発音などの提示のために記載されている文（例：JS-5, p.29）も調査対象としている。ただし、BSE と JTE

には Pre Unit が含まれているが、必ずしも授業で取り扱われるとは限らないため、今回は調査範囲に含めなかった。また、JSの「ふろく」の部分も、同様の理由で調査範囲外とした。

本研究の目的は、教科書に出現する動詞の頻度を明らかにすることであるため、完全文・不完全文に関係なく、動詞として出現している数を数える。そして、図3のようにイラストと共に単語だけで示されている動詞も含めた。



図3. 単語のみで示されている動詞 (BSE-5: 44)

また、(1)で太字で示した、疑問文や否定文、命令文で助動詞として使用される *do* や、*Let's* は対象とせず、下線のように主動詞として使用される動詞のみを対象としている。

- (1) a. **Do** you like soccer? – Yes, I **do**. (CJ-6: 25)  
 b. **Don't** talk. (OWS-5: 44)  
 c. **Let's** sing a song. (CJ-6: 47)

表1の調査範囲内であっても、記載されている英語の歌や英語の詩、早口言葉については、同じ表現が繰り返されるため、調査対象外とした。同様の理由で、*Let's listen*, *Let's sing*, *Let's chant* などの見出しとして使用されている表現も対象外とした。また、(2)のような慣用表現内の動詞(太字)についても、動詞を抜き出して数えることはせず、対象外とした。

- (2) **Thank** you./ **You're** welcome./ **That's** right./ I **see**./ Nice to **meet** you./ Here you **are**./ **See** you./ Long time no **see**.

このような調査方法で、全7社の教科書で使用されている動詞の頻度を数えた。次節で全体的な結果をまとめる。

### 3. 教科書調査の全体的結果

#### 1) 動詞の出現頻度と形態

本節では、動詞の教科書調査における全体的な結果を示す。本稿での動詞の異なり語数では、過去形や、動名詞、不定詞などの形で使われた活用形も含め、1語(レマ, lemma)として数えている(例: *play*, *played*, *playing*, *to play* → *play*)。その点で、活用形を別々の語(type)として数えた Hoshino (2020), 佐藤 (2021) とは異なることには、注意されたい<sup>注1, 2)</sup>。この理由は、2つある。1つは、活用形の導入の際には、教師が既習の原形と共に提示し、明示的に関係を示した上で提示することが十分に想定でき、それにより学習者は活用形同士

の関係を把握し、1つの語として関連付ける機会を持つことが十分考えられること、そしてもう1つが、この方法で数えることにより、これまでに行われた中学校検定教科書の調査結果や、提案されている語彙リストとの比較が可能となることである。ただし、全体としての語の認定はこのように行うが、一部活用形別にその頻度も提示し、議論を行う(4節参照)。

調査の結果、7社の教科書において観察された動詞(レマ)の異なり語数と延べ語数を表2に示す。

表2. 動詞(レマ)の異なり語数と延べ語数

教科書	語数	異なり語数	延べ語数
BSE		60	482
CJ		59	386
HWG		58	455
JS		47	493
JTE		56	784
NHE		52	564
OWS		64	458
平均		56.6	517.4

全教科書における動詞(レマ)の異なり語数の平均は56.6語であり、延べ語数の平均は517.4語であった(全動詞とその頻度については、付録1, 2参照)。先に示したように、学習指導要領では、600 – 700語程度の語を学ぶこととなっているが、動詞(レマ)はそのうち1割強を占めている結果となっている。

また、異なり語数と延べ語数には、教科書ごとに大きな差異があることがわかる。JSでは異なり語数は47語と少ないのに対して、OWSでは64語が観察され、その差は17語である。また、延べ語数が最も少ないのはCJの386語であり、最も多いのはJTEの784語である。延べ語数の最も少ない教科書と最も多い教科書では、およそ2倍という大きな差があることが分かった。その中での共通点と相違点については、以下で詳しく見ていきたい。

#### 2) 全教科書で共通して観察された動詞

次に、7社全ての教科書で、共通して観察された動詞を示したい。共通して観察された動詞は、(3)に示す22語であった(全教科書で共通して観察されたが屈折形や過去形などがある場合は、それも記載している)。

- (3) a. 状態 : *be* 動詞 (*am*, *is*, *are*, *be*, *was*), *have*  
 b. 心理・知覚 : *enjoy* (*enjoyed*), *like*, *see* (*saw*), *want*  
 c. 動作 : *clean*, *cook*, *do*, *eat* (*ate*), *get*, *go* (*went*), *jump*, *play*, *read*, *run*, (*shop*<sup>注3)</sup>), *sing*, *study*, *swim*, *turn*, *watch*

異なり語数の平均が56.6語だったことと比べると、共通して出現する動詞はその約4割と、半分以下であることが分かる。また、意味的に見ると、先行研究でも指摘

表3. 各教科書における上位5つの高頻度語（括弧内の数字は延べ語数）

順位	教科書	BSE	CJ	HWG	JS	JTE	NHE	OWS
1		be (136)	be (132)	be (109)	be (125)	be (189)	be (198)	be (115)
2		want (48)	go (29)	want (50)	go (45)	want (115)	want (58)	want (40)
3		play (29)	want (28)	like (37)	like (42)	go (73)	like (44)	like (31)
4		like (28)	have (24)	play (30)	want (41)	like (51)	eat (40)	go (30)
5		go (22)	like (19)	go (19)	have (31)	see (39)	go (24)	enjoy (23)

されているように、身近な動作を表す動詞が多く共通して使用されていることが分かる。

### 3) 高頻度語に見られる傾向

次に、高頻度で観察された動詞がどのようなものだったかを示したい。各教科書において出現頻度が最も高かった上位5つの動詞を、表3にまとめる。表3から分かるように、全ての教科書で類似した傾向が見られる。7社全ての教科書で共通していることは、出現頻度が最も高いのがbe動詞という点であり、その頻度は2位以下と比べても圧倒的である（be動詞の各屈折形別の頻度については、4節で見る）。また、2-5位を占めている動詞には、*want, like, go, play, have*などの動詞が多かった。*want*や*like*が高頻度で生じる要因として、単元で扱うテーマがある。5年生では自己紹介や料理を注文する単元などで、*like*を多用し、6年生では将来の夢・職業や行きたい場所を伝える単元などで、*want*の使用が多い。また、共通して取り上げられている道案内の単元では、*go*が頻出していた。

さらに、語彙の定着率が高いとされている6回以上出現する高頻度の動詞と（Ⅱ.1参照）、5回以下しか出現しないものとの異なり語数の割合を、図4に示す（付録1,2も参照のこと）。

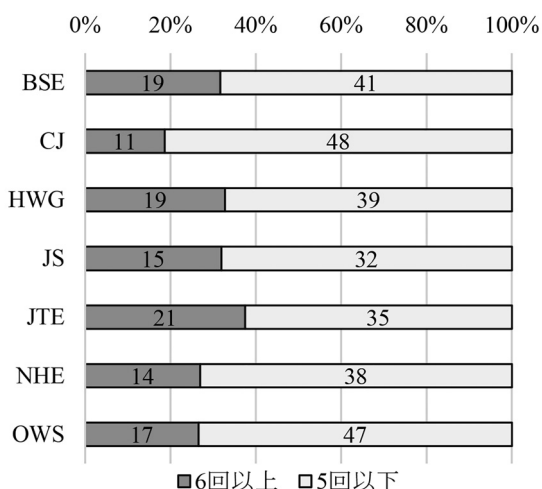


図4. 高頻度動詞と低頻度動詞の異なり語数とその割合

高頻度語の割合が最も高い教科書はJTEの37.5%であ

り、高頻度語の割合が最も低いのは、CJの18.6%であった。高頻度語の割合も教科書によって異なることが分かる。そして、どの教科書においても、6-8割程度の動詞の出現頻度が5回以下であるため、これらの語については、教科書のみでは習得が十分進まないことが示唆される。

### 4) 低頻度語に見られる傾向

次に、出現頻度が低い動詞について示したい。特に、習得に結びつけるのが難しいと考えられる、出現頻度が1回しかない動詞はどのような動詞なのか、その割合と共に、表4で示す。例は5つずつあげているが、その内、他の教科書では出現頻度が高かった動詞については、太字で示している（付録2に全ての動詞を示している）。

表4. 1回のみ動詞（異なり語数）の割合とその例

教科書	語数 (%)	例
BSE	18 (30.0%)	<b>clean, give, jump, sit, turn</b>
CJ	22 (37.3%)	ask, <b>dance</b> , sleep, take, think
HWG	19 (32.8%)	<b>bake, come, live</b> , open, speak
JS	12 (25.5%)	<b>help, kick, look, visit, wash</b>
JTE	10 (17.9%)	<b>listen, meet, stay, travel, use</b>
NHE	20 (38.5%)	change, <b>get, know, read, sit</b>
OWS	23 (35.9%)	<b>come, stop, talk, turn, watch</b>

出現頻度が1回の動詞の割合が最も低いのは、JTEの17.9%であった。そして、割合が最も高いのはNHEの38.5%であり、約4割の動詞が教科書に1回しか出現せず、教科書だけでは定着させるのが非常に難しいことが推測される。さらに、他の教科書では出現頻度の高い動詞が、低頻度である場合もあることがわかった。特に、*have, look, get, come*など日常生活を表す際によく使用される基本的な動詞が、1回のみしか文字で提示されない教科書もあることには注意が必要である。

ただし、今回の調査は教科書に文字で記載されている動詞のみを調査の対象としているため、聞く活動やその他のコミュニケーション活動を通してこれらの語の使用が想定されている場合もある点には、注意が必要である。実際、教科書と教師用指導書を対象に調査を行った佐藤

(2021) では、高頻度特徴語上位 20 語に *want* が 1 位として示されており、その頻度は 751 回であった（注 1 参照）。今回行った 7 社の教科書のみでの *want* の頻度の合計は 380 回であり（表 3）、そこには大きな差がある。教師用指導書を含め、目にする語だけではなく、聞くことが想定される語の頻度調査が今後の課題である。

#### 4. 動詞の形と頻度

本節では主に動詞の形に着目し、さらに詳細に調査結果を見ていく。

##### 1) be動詞の屈折形別出現頻度

まず、全ての教科書で圧倒的に頻度の高かった *be* 動詞について見たい。*be* 動詞はその主語により、複数の屈折形を持つ動詞である。表 5 は *be* 動詞の出現頻度を、屈折形別に示したものである。

表 5. *be* 動詞の屈折形別の出現頻度

	BSE	CJ	HWG	JS	JTE	NHE	OWS
<i>be</i>	11	12	12	12	25	17	11
<i>is</i>	73	94	66	96	110	150	77
<i>am</i>	26	9	18	4	40	15	9
<i>are</i>	1	8	6	8	1	7	6
<i>was</i>	25	9	7	5	13	9	12
<i>were</i>	0	0	0	0	0	0	0
計	136	132	109	125	189	198	115

表 5 から、屈折形によって出現頻度が大きく異なることが分かる。*be* 動詞の屈折形の中で、*is* がどの教科書でも圧倒的に多く、次いで *be*, *am*, *was*, そして *are* の出現頻度が最も少ないことが分かる。また、興味深いことに、7 社全ての教科書において、*were* の使用は観察されなかった。

具体的に見ると、全教科書において *is* は教科書全体を通し、高頻度に観察された。*be* は 6 年生の将来の夢・職業を紹介する単元で、*I want to be ...* という定型表現の一部として共通して使用されていた。また、過去形の *was* は夏休みや最高の思い出を紹介する単元で出現していたが、*It was delicious.* や *It was beautiful.* のように、どれも主語は *it* に限定されていた点は興味深い。その他については、いくつか特徴的な分布が見られる。

教科書ごとにばらつきがあったのは 1 人称主語と生じる *am* で、低頻度の教科書もあれば、出現頻度で上位に位置している教科書もある。1 人称が中心となる単元の多さは共通しており、音声としては頻繁に使用されていることが推測できるが、文字としての差異は興味深い。主に *I'm...* の形で使用される傾向があった点も特徴的である。

また、*are* の出現頻度は、他と比べると、どの教科書でも少なく、*is* の出現頻度と比べると、その差は注目に値する。*be* 動詞の屈折形は主語によって決まるが、*are* は 2 人称単数と（人称を問わない）複数の主語に対応する屈折形であり、他の屈折形に比べ主語の人称と数は多様である。教科書では、その主語に偏りが見られるのであろうか。表 6 に、各教科書において *are* がどのような主語と共起していたかを示す。

表 6. 観察された *are* の主語

主語	BSE	CJ	HWG	JS	JTE	NHE	OWS
1 人称複数	0	3	0	3	0	1	1
2 人称単数	1	3	5	5	1	3	5
2 人称複数	0	0	0	0	0	0	0
3 人称複数	0	2	1	0	0	3	0
計	1	8	6	8	1	7	6

表 6 から分かるように、全ての教科書において、2 人称単数の *you* が主語になる場合は観察されたが（例：*You are great.*）、2 人称複数の例は観察されなかった。また、1 人称と 3 人称複数の主語と共起する *are* の使用には、教科書ごとに差が観察された。これらの主語との共起する文がまったく観察されない教科書もある。また、3 人称複数の主語と共に使用される例は 3 つの教科書のみでしか観察されなかった。そのうち、主語が *they* の例は 1 例のみで、その他は名詞句の複数形（例：*bears*）が主語の場合であった。これらの限定的な主語との共起、そしてその出現頻度の低さから、*are* については、どのような場合にその形を使用するか、児童が手がかりを得ることは非常に難しい状況にあり、その扱いに注意が必要となることが分かる。

このような *be* 動詞の状況から、IV 節でこれらの教科書ごとの差異の問題については論じたい。

##### 2) 過去形とその異なり語数

次に、過去形とその異なり語数を見たい。移行期間に使用されていた *We Can!* 1, 2 では、*went*, *saw*, *ate*, *enjoyed* という 4 つの動詞のみが過去形として出現していた（渡慶次, 2021）。一方で、平成 29 年に告示された新学習指導要領では、文の取り扱いについて、2 内容(1)英語の特徴やきまりに関する事項、エ 文及び文構造(ア)において「f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの」と示されているが、具体的にどのような過去形を使用するのかは示されていない。

そのため、どのような動詞の過去形が出現しているのかを調査した。表 7（次頁）では、教科書別に観察された動詞の過去形を、規則動詞と不規則動詞に分類し、アルファベット順に列挙している。また、下線の動詞は当

表 7. 教科書内で観察された動詞の過去形とその出現頻度

教科書	規則動詞	不規則動詞	異なり語数
BSE	<u>enjoyed</u> (6), <u>planted</u> (1), played (10), <u>pulled</u> (8), watched (7)	ate (6), bought (8), came (1), <u>gave</u> (1), had (2), made (8), <u>sat</u> (1), saw (7), was (25), went (7)	15
CJ	enjoyed (4)	ate (1), had (1), saw (2), was (9), went (5)	6
HWG	<u>baked</u> (1), enjoyed (3), jumped (1), <u>opened</u> (1), played (1)	ate (5), made (2), sang (1), saw (3), took (3), was (7), went (8)	12
JS	enjoyed (14), <u>pulled</u> (3)	ate (11), saw (11), was (5), went (11)	6
JTE	enjoyed (12), looked (2), visited (2)	ate (9), came (1), <u>met</u> (1), saw (9), was (13), went (9)	9
NHE	enjoyed (10), <u>saved</u> (1)	ate (10), saw (5), was (9), went (10)	6
OWS	enjoyed (11)	ate (11), <u>came</u> (1), ran (1), sat (2), saw (9), was (12), went (5), <u>wrote</u> (2)	9

該教科書において、過去形のみが観察された動詞である。言い換えると、現在形など他の形での使用は観察されなかった動詞である。表 7 から、教科書ごとに出現する過去形の異なり語数に差はあるものの、使用されている動詞は類似していることが分かる。ただし、7社の教科書全てで共通して使用されている動詞の過去形は、*enjoyed, ate, saw, was, went* の5つのみであった。教科書によっては、過去形のみが観察される動詞があった点は、指導上注意が必要であろう。

この結果から、*We Can!* 1, 2 で使用されていた過去形の動詞は全て、現行の検定教科書でも引き続き使用されていることが分かる。そして、それに加え、各教科書ごとに異なる動詞が過去形で使用されているが、数は限定的であり、その多くが現在形として、すでに当該教科書で導入されているものであり、活用頻度が高いと考えられていると思われる（付録 1 参照）。

#### IV. 考察

本節では、Ⅲ節の調査結果から、特徴的だった差異と、その問題について論じ、その上で授業内においてそれらをどのように補うことが可能かについて提案する。

##### 1. 学ぶべき動詞の種類とその頻度

###### 1) 動詞の選択

まず、小学校での英語教育において、扱うべき重要な語彙はどのようなものか、そしてそれは教科書で使用されているのかについて、論じたい。そのために、佐藤 (2018b) の語彙リスト内の動詞と比較する。

佐藤 (2018a) は、*Hi, friends!*、『英語ノート』、教室英語辞典、絵本、中学校 1 年生用の検定教科書、*Picture Dictionary*、L1 児童用の教材、L1 児童用の語彙リストなどを元にコーパスを作成し、小学生向けの受容語彙リストにはどのような語彙が含まれるべきなのかを論じている。その上で、作成した語彙リストを、「小学生のための重要語彙リスト」としてホームページ上で公開している（以下、佐藤 (2018b)）。実際に使用されている教材

だけではなく、多様な教材から小学生が学ぶべき語彙を選定しているため、この語彙リストと、本調査で得られた動詞を比較し、その特徴を探る。

まず、佐藤 (2018b) が示している 800 語のリストから動詞を抜き出し、その中の上位 50 語まで（全体の順位 501 位に当たる *mean* まで）の動詞が、各教科書において使用されていたかどうかを調べた。その結果、どの教科書にも出現しなかった動詞と、いずれかの教科書には出現しているものの、その出現数が 1 回であったもの（下線）を、(4) に列挙する。

- (4) say, think, ask, answer, work, call, meet, use, find, tell, win, give, stand, close

これらの動詞のほとんどは、教室英語の中で多用されることが推測されるものである。しかし、教科書では文字としてほとんど提示されていないことは注意すべき点である。小学生にとって重要な語彙だと考えられる動詞であるため、教師が意識的に授業内外においてこれらの動詞を文字として提示することで、より児童の習得を促すことができるのではないだろうか。

##### 2) be動詞と主語

次に、Ⅲ. 4. 1) で見た be 動詞について考えたい。特に前節で示した特徴から、その問題を考えたい。言うまでもなく、be 動詞は主語によって屈折する動詞である。そして、進行形や受動態を学習しない小学校外国語科では、be 動詞は「主語（代名詞・名詞句）+ be + 補語」の文型でしか生じないため、主語（代名詞・名詞句）によって形が異なることに気づかせることは重要だと考える。しかし、表 5 から分かるように、児童はどの屈折形をどのような場合に使うかについて、気付きの手がかりとなる十分なインプットを、文字としては得られていない状況にあると言える。特に、*are* については、表 6 から分かるように、その問題は使用頻度の低さと教科書内で観察される主語の限定性にある。教科書で設定されている場面を考えると、1 人称・2 人称単数が主語になる文は想定しやすく、実際教室内で多数使用されていることが推測されるが、文字としての *You are ...* という形の



文が教科書でほとんど提示されていないことは（最も多い教科書においても5回）、重要な特徴として指摘しておきたい。

また、先に述べたように、*was*の主語として観察されたものは全て*it*であり、1人称単数*I*との共起は観察されなかったこと、*were*に至っては1例も使用されていないことから、*be*動詞の屈折形の提示は、教科書では限定的であり、これらのことから、*be*動詞の体系的な提示とその習得は、小学校英語検定教科書では意図されていないことが分かる。この点については、中学校との接続において、重要なポイントとなるだろう。

## 2. 提案

本節では、本調査から分かった動詞の頻度の差異とそこから見える問題を踏まえて、どのようにそれらを授業内で補うことができるかについて、提案を行う。

### 1) 低頻度動詞の使用

まず、使用している教科書内での動詞の出現頻度を把握し、教科書での出現頻度が少ないものを意識的に授業に取り入れることで、それらの語彙の習得へつなげていくことを提案したい。特に使用している教科書内では低頻度であるが、他の教科書においては高頻度で観察される動詞については、中学校への接続を考える上でも、補う必要性があると考え。十分な頻度で提示されていない動詞は教科書だけでは定着が難しいことから、その中の特に重要だと考えられる動詞に関してはリスニング等で補填していく、もしくは意図的に授業内外で文字として提示するなどを行うことで、児童の習得を促すことが大事であろう。

さらに、他の教科書で使用されている関連語彙を導入することで、馴染みのある語彙の幅を広げることも有益だろう。そうすることで、教科書間での差異を補うことができるだけでなく、中学校において生徒間での馴染みのある語彙に対する差を小さくすることにもつながるのではないだろうか。

### 2) *be*動詞の使用

先に見たように、*be*動詞の屈折形の使用には教科書ごとに差が見られた。ただし、教科書内での使用が少なかった*are*については、2人称単数の主語と共に、*You are ...*の形で教室内で使用されていることは明らかだろう。また、多用されていると考えられる*I am ...*についても、文字での提示は教科書によっては非常に限定的である。これらについては、教科書の状況を踏まえ、音として慣れ親しんだ後、意識的に文字で提示する工夫が考えられる。

問題となるのは、2人称・3人称複数と共起する*are*

の使用である。これについては、意図的にある程度使用することが、中学校との接続を考えたときには必要となるだろう。特に、動物や果物などの一般名詞についての性質を述べるような文は、扱われている教科書はNHEのみであった。これは、特に他の教科書を使って授業を行う場合は、意識し、可能であれば提示する必要があるのではないだろうか。

### 3) 中学校への接続

次に、中学校への接続について考えたい。まず、最も重要な点は、1)、2)で提案した小学校における対応と共に、中学校の英語教員が、小学校英語検定教科書の現状と教科書間の差異を知ることだろう。特に、低頻度であった動詞については中学校において習得を促す工夫が必要だと考えられる。特に注意しなければならないのは、*be*動詞である。中学校英語教員は、小学校においては一部使用が限定的である屈折形があること、そして網羅的には取り扱われていないことや、*is*以外の屈折形を小学校では目にするのが少ないことを意識しつつ、中学校において、その仕組みを体系的に習得させることが重要であろう。

中学校英語検定教科書は、令和3年度4月より新学習指導要領に対応し、新しいものとなった。今後、これらの調査を行い、実際どのような接続上の問題があるかについても検討を行う必要があるだろう。

## V. 結論と今後の課題

本調査の結果、7社の小学校検定教科書の間には、出現する動詞、特に高頻度語には共通点もあるものの、総数及び異なり語数において大きな偏りがあることが明らかになった。文の構造の決定に大きな役割を果たす動詞の習得は言語学習において、非常に重要な要素である。

しかし、現場の小学校教員は、自分の使用している教科書と他社の教科書を比較する機会は少なく、さらに中学校英語教員は、小学校で使用されている教科書に、動詞だけに限ってもこのような差があることを考えることは少ないだろう。本研究が、小学校で英語を教える教員には基礎的な資料となると共に、中学校英語教員には、中学校で補足すべき語を検討する資料となることも期待している。

しかし、本調査は、先に述べたように、教科書に記載されている動詞を対象としている点に課題が残されている。特に小学校での英語教育では、音として聞く、もしくはチャンツなどを含む繰り返すアウトプットやコミュニケーション活動が重要な部分を占めている。これらの中で使用される語彙の実態を探ることが今後の課題である。

学習者にとって効率的で確実な語彙の習得のため、どのように現場の教員、教科書会社、大学などの研究機関が連携し、語彙を選択し、使用するかを、今後考えていく必要があるだろう。

## 注

注1) 佐藤 (2021) の調査の結果分かった令和2年度版検定教科書の高頻度特徴語上位20は、(i)の通りである。ただし、本稿の調査と異なり、活用語はそれぞれ別の語 (type) として数えられている点には注意されたい。

(i) want, hi, I, festival, straight, like, go, play, can, tennis, soccer, birthday, Ms., my, hero, is, eat, do, she, swimming (佐藤 2021, p. 63 より抜粋)

注2) Hoshino (2020) と本稿の差は、数え方にある。Hoshino (2020) は、動詞は活用形ごとに別の語彙として数えており、本稿はレマとして活用形も含め、1つの動詞として数えている。また、“I’m”を1語として数えている点、大文字と小文字を区別していない点 (May「5月」と助動詞の May (I ...?) は区別されないことから、助動詞の do も動詞の do と共に数えられていると推察される) も、本稿と異なる点であり、そのため述べ語数などの数値に違いが生じている。

注3) ただし、shopについては、全ての教科書で動名詞 shopping の形のみで使用されおり (例: I enjoyed shopping.), 主動詞としての使用は観察されなかった。fish など他にもいくつかこのような語が観察された。

## 謝辞

本論文の草稿の段階で、佐藤美智子先生に貴重なご意見を頂いた。この場を借りて、感謝申し上げる。なお、本論文の誤りは、すべて筆者の責に帰するものである。

## 教科書

アレン玉井光江 (他) (2020) 『NEW HORIZON Elementary English Course 5, 6』東京書籍。  
影浦攻 (他) (2020) 『Blue Sky elementary 5, 6』啓林館。  
金森強 (他) (2020) 『ONE WORLD Smiles 5, 6』教育出版。  
小泉仁 (他) (2020) 『Here We Go! 5, 6』光村図書。  
酒井英樹 (他) (2020) 『CROWN Jr. 5, 6』三省堂。  
萬谷隆一 (他) (2020) 『Junior Sunshine 5, 6』開隆堂。  
吉田研作 (他) (2020) 『JUNIOR TOTAL ENGLISH 5, 6』学校図書。

## 参考文献

- 佐藤剛 (2018a) 「小学生のための受容語彙リストの開発」*JES journal*, 18, pp.36-51.
- 佐藤剛 (2018b) 「小学生のための重要語彙リスト」(<http://hirosakieigo.weblake.jp/satoclass/material/vocab/vocalist2018.pdf>)
- 佐藤剛 (2021) 「小学生のための受容語彙リストの開発: 検定教科書から小学生共通の重要語彙を選定する」*JES journal*, 21, pp.54-69.
- 佐藤剛・秋田谷桃花 (2018) 「Hi, Friends! と中学校の教科書の語彙の比較—頻度とコロケーションの観点から」『弘前大学教育学部紀要』120, pp.111-119.
- 投野由起夫 (2016) 「教科書語彙の「調理法」と品質管理」中学校改訂版教科書の語彙レベルと語数『英語教育』64(12), pp.17-19.
- 渡慶次正則 (2021) 「小学校英語教科書「We Can! 1」「We Can! 2」の文型出現頻度と題材について」『名桜大学紀要』26, pp.25-46.
- 眞野美穂・鈴江涼子 (2018) 「中学校英語検定教科書における動詞の出現頻度調査: 現状と課題」『鳴門教育大学研究紀要』33, pp.295-308.
- 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領』([https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/09/05/1384661\\_4\\_3\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/09/05/1384661_4_3_2.pdf))
- Brown, R., R. Waring, and S. Donkaewbua (2008) “Incidental vocabulary acquisition from reading, reading-while-listening, and listening to stories.” *Reading in a Foreign Language*, 20(2), pp.136-163.
- Hoshino, Y. (2020) “Vocabulary range and characteristics of words appearing in elementary school English textbooks in Japan.”『全国英語教育学会学会誌』31, pp.49-63.
- Laufer, B. and I. S. P. Nation (2012) “Vocabulary.” S. M. Gass and A. Mackey eds. *The Routledge Handbook of Second Language Acquisition*, pp.163-176. Routledge.
- Morita, M., Uchida, and S. Takahashi (2019) “The frequency of affixes and affixed words in Japanese junior high school English textbooks: A corpus study.” *Annual Review of English Language Education in Japan*, pp.129-143.
- Nation, I. S. P. (2001) *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge University Press.
- Saragi, T., I. S. P. Nation, and G. Meister (1978) “Vocabulary learning and reading.” *System*, 6, pp.72-78.
- Zahar, R., T. Cobb, and N. Spada (2001) “Acquiring vocabulary through reading: Effects of frequency and contextual richness.” *Canadian Modern Language Review*, 57(4), pp.72-78.

付録 1. 各教科書における全動詞リスト（出現頻度 2 回以上）

	BSE		CJ		HWJ		JS		JTE		NHE		OWS		
	動詞	頻度	動詞	頻度	動詞	頻度	動詞	頻度	動詞	頻度	動詞	頻度	動詞	頻度	
1	be	136	be	132	be	109	be	125	be	189	be	198	be	115	
2	want	48	go	29	want	50	like	45	want	115	want	58	want	40	
3	play	29	want	28	like	37	go	42	go	73	like	44	like	31	
4	like	28	have	24	play	30	want	41	like	51	eat	40	go	30	
5	go	22	like	19	go	19	have	31	see	39	go	24	enjoy	23	
6	eat	13	play		eat	16	see	25	play	32	enjoy	21	play	20	
7	have	12	eat	10	get	13	eat	22	have	25	play	18	eat	17	
8	make	11	get	8	have		enjoy	19	eat	24	see	17	have	16	
9	buy	10	look	8	watch	11	play		enjoy	24	live	16	see		
10	cook		see	7	enjoy	10	swim	14	dance		16	do	13	get	11
11	see		cook	6	see		do	9	turn	12	get	15	study	12	run
12	sing		enjoy	5	do	run	9		join	8	make	14	have	9	swim
13	swim		jump		clean	8		do	6	jump	7	swim	12	listen	8
14	watch		read	cook	7	get	ride	11		clean	5	run	6	jump	sing
15	pull	8	swim	4	swim	run	5		sing	turn		9	join	fish	6
16	join	7	sing		take	6		study	shop	paint	7	talk	shop	buy	
17	come	6	watch	3	take	6	shop	4	take	7	camp	4	ride	5	
18	dance		come		visit		join		5		walk		take		read
19	enjoy	fish	hike	make	5	fly	5	run	6	buy	3	wash	4		
20	do	ride	run	ride	4	love		pull		walk		5		come	3
21	get	run	shop	fish	4	pull	read	3	watch	help	do				
22	help	5	camp	2	study	4	read	3	bake	3	visit	3			
23	move		clean		dance		sing		come		spell		skate	brush	
24	run	4	do	3	jump	3	start	4	cook	4	turn	3			
25	study		drink		read		stop		look		visit		help	sit	
26	fish	3	fly	2	roll	3	barbecue	4	visit	4	watch	2	clean	2	
27	ride		kick		set		camp		wait		bake		draw		
28	skate		listen	walk	cook	wash	wash	break	draw	2	break	drink			
29	ski		make	wash	dance	brush	brush	fish	keep						
30	speak		put	buy	2	hop	2	do	love						
31	take		remember	camp		live		jump	do	sing					
32	walk	2	sit	1	design	2	try	3	live	3	open	2			
33	camp		study		draw		watch		love		love		ski	study	
34	draw		turn	help	2	hike	2	study	3	ski	3	take	2		
35	hike		walk	know		spell		buy		buy		study		buy	write
36	read		1	付録 2	1	付録 2	1	付録 2	1	付録 2	1	付録 2	1		
37	set														
38	stop														
39	visit														
40	wash														
41	water														
42	付録 2	1	付録 2	1	付録 2	1	付録 2	1	付録 2	1	付録 2	1			
43															
44															
45															
46															
47															

付録 2. 各教科書における全動詞リスト（出現頻度 1 回，（ ）内は語数）

	動詞
BSE	chase, choose, clean, cross, drink, enter, feed, fly, give, grow, jump, plant, push, sit, shop, spell, surf, turn (18)
CJ	ask, build, buy, chat, climb, cut, dance, dive, feed, help, jog, ski, sleep, smile, take, talk, think, touch, wait, wash, write, water (22)
HWG	bake, bring, catch, clear, come, drop, fall, jog, live, love, open, practice, shop, ski, speak, start, stop, surf, turn (19)
JS	climb, help, hit, hike, kick, look, skate, ski, surf, tap, visit, wash (12)
JTE	chase, cheer, fish, hike, jog, listen, meet, stay, travel, use (10)
NHE	change, drink, get, guess, jump, kick, know, love, read, reuse, save, shop, sit, stand, start, think, throw, travel, use, work (20)
OWS	catch, change, close, come, cover, dance, drop, feel, gargle, greet, guess, hike, hit, hold, miss, push, read, spell, sound, stop, talk, turn, use, wait, watch (23)